

競 技 上 の 注 意 (案)

- 1 本大会は2026年度(公財)日本バドミントン協会競技規則及び公認審判員規程に準じ、同大会運営規程(競技上の注意)により行う。
- 2 得点について 全試合15点(上限21点)2ゲーム先取ルールで行う。
- 3 タイムテーブル・進行・決勝リーグ勝敗決定について
 - (1) 試合は、試合番号優先で進行する(流し込み)。
 - (2) 進行上、タイムテーブルとコート及び時間が変わる場合があるため、館内放送に注意する。
 - (3) 1日目は団体戦(予選トーナメント及び決勝リーグ)、2日目は団体戦(決勝リーグ)及び個人戦(2回戦まで)、3日目は個人戦(3回戦～決勝)とする。
 - (4) 団体戦では、1回戦は1コートで、2回戦以降2コート同時に進行する。進行状況によっては決勝リーグ(1日目)は3コート同時に行う。
 - (5) 団体戦において、どちらかが初戦の場合、勝敗が決定しても3試合全て行う。**それ以降の予選トーナメントは勝敗が決した時点で打ち切りとする。決勝リーグは3試合すべて行う。**
 - (6) 決勝リーグ戦の勝敗が同じ場合は、次の順で成績を決定し、1位～3位まで表彰する。
① 得失試合(マッチ)率 ② 得失ゲーム率 ③ 得失点(ポイント)率 ④ 直接対決の勝利チーム
※大会開催途中に災害等で開催困難となった場合、「⑤抽選」の結果で、順位を決定する。
 - (7) 2日目の個人戦について、12:30以降に行う。(12:30より早く入ることはない。)
 - (8) 団体戦、個人戦ともに連続試合になる場合は、10分間のインターバルをとることとする。
- 4 選手待機場所について
 - (1) 選手招集場所を設置する。試合の近づいた選手は、集合すること。**個人戦では線審と得点係を連れてくる。**
 - (2) 選手を並べることはしない。(各チームでコールや表示をよく確認する。)
 - (3) コールされて3分以内に入らない場合は失格になる場合があるので、各チームで時間管理を徹底する。
- 5 団体戦のオーダー提出について
 - (1) 1回戦及び初戦は、ゲーム開始予定時刻15分前までに本部にオーダー用紙を提出する。(但し、1日目**9:30**予定の試合の団体戦については、**9:00**までに提出する)
2回戦以降は館内放送に従い、速やかにオーダー用紙を提出する。(基本的には試合開始予定時刻15分前に行う)また、2日目のオーダー提出時刻を8:30とし、それ以降は館内放送に従う。
 - (2) 全試合ともオーダー用紙提出後の変更を認めない。
 - (3) オーダーの提出については原則として該当チームの監督が行うが、監督が試合中で提出できない時は、コーチまたはマネージャーが行う。(生徒がマネージャーの場合はできない。)
 - (4) 試合の開始時に監督同士で相手チームとオーダーの交換を行う。
- 6 サイド
 - (1) 団体戦では、ベンチとコーチングシートをバックバウンダリーライン側に設ける。
 - ① 監督は、ベンチかコーチングシートのどちらかに必ず入らなければならない。
 - ② ベンチへは、監督1名、コーチまたはマネージャー1名と選手7名の計9名以内が入ることができる。
 - ③ コーチングシートへは、監督、コーチまたはマネージャーが入ることができる。
 - ④ 団体戦のベンチは、組み合わせの上側(若番)のチームが主審から見て左側ベンチに入る。
 - (2) 個人戦では、コーチングシートをバックバウンダリーライン側に設ける。
 - ① 監督はコーチングシートに必ず入らなければならない。
 - ② コーチまたはマネージャー1名もコーチングシートに入ることができる。
 - ③ チームが複数コートでしている場合は監督、コーチまたはマネージャーの順で入ることができる。
 - ④ 個人戦では組み合わせの若番が主審から見て左側のエンドに入る。
 - (3) コーチングシートは、選手がチェンジエンスした際に交代する(アドバイスはチェンジエンス後とする)。
- 7 ゲーム中(インプレー以外時)のアドバイスについて
 - (1) アドバイスはコーチングシートからのみとする。
 - (2) 試合の遅延行為にならないようにする。また、相手選手が萎縮するようなアドバイスであってはならない。
- 8 インターバル
 - (1) **全てのゲーム中に、一方のサイドのスコアが8点になったとき、60秒を超えないインターバルを認める。**
 - (2) 第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認める。
 - (3) インターバル時のアドバイス
 - ① 団体戦では、コーチングシートまたはベンチに入っている者2名までコートサイドに行くことができる。
 - ② 個人戦では、コーチングシートに入っている者2名とする。但し、2コート以上で同一校の選手が試合を行う場合は、監督、コーチまたはマネージャーはインターバルの時に限り、コートを離れて、アドバイスに行くことができる。また、元の席に戻らなくても良い。
- 9 シャトルについて
 - (1) シャトルは本部で渡されたシャトルを使用する。
 - (2) シャトルを渡されたら、試し打ちはなし。すぐに試合を開始する。

- 10 公式練習 (団体戦) どちらかが初戦であれば、それぞれのマッチの前に2分の公式練習時間を設ける。
(個人戦) どちらかが初戦であれば、両方に2分の公式練習時間を設ける。
※但し、シングルスは対戦者同士で行うこと
- 11 水分補給等
競技中の汗拭き、水分の補給については、主審の許可を得て行い、ゲームの中断にならないようにする。水分補給用容器はスクイズボトル(ワンタッチ式水筒等)を使用する。フロアが濡れた場合は必ず拭き取る。
(コートサイドへのペットボトル持ち込み禁止)
- 12 試合態度
(1) プレーを故意に遅らせたり中断したりすることをしてはならない(第16条 第4, 6項)。
○くつひもの結び直し ○眼鏡を拭く ○構えない ○サーブをなかなか打たない
○汗拭きのために勝手にコートを出る 等
(2) 見苦しい服装、無礼な態度や言動、耳障りな掛け声や叫び声などもしてはならない(第16条 第6項)。
(3) 審判に対しての質問は認められるが、抗議はできない。但し、団体戦においては当該選手および監督、個人戦においては当該選手のみとする。
※(1)~(3)の行為が度重なる場合は、警告の後フォルトをとる。度重なる場合は失格となる場合もある。
(4) 上衣は下衣の中に入れること。(ユニフォームの形状で上衣を中に入れられないものもあるが、あいさつの時やインターバル後は入れておくこと)。
(5) はちまき、ヘアバンド、リストバンド、サポーター、テーピングは認めるが、ブレスレット、アンダーラップ、ネックレス等の装飾品(スポーツ用品等も含む)及び、マスコット等を身につけてのプレーは認めない。また、髪をとめるピンや髪を結ぶヘアゴム等は、黒や紺、茶系統とし、光に反射する物であってもならない。
- 13 サービスジャッジ
監督(複数で試合をしている場合はコーチまたはマネージャー)からの要請があり、主審及び競技役員長がその必要性を認めた場合、サービスジャッジをつけることができる。
- 14 その他
(1) 大会使用ウェアは、(公財)日本バドミントン協会審査合格品とする。
(2) ウェアは背面や袖口にプリントや刺繍のないものを使用し、ゼッケンは四隅の4箇所を留めること。
もし、背面プリントのあるウェアを着用する場合は、ゼッケンで完全に隠れるようにすること。
(3) 監督、コーチは会場内に入る場合は、IDカードを必ず着用すること。
(4) 監督、コーチは会場内に入る場合、競技用シューズや体育館シューズを履くこと。また、監督、コーチの服装は、試合にふさわしい服装とし長ズボン(ジーンズ不可)、スカート、襟付きシャツ(またはチームシャツ)とする。
マネージャーはチームユニフォーム上下(短・ハーフパンツ)でも可。
~~※今大会は暑さ対策として、監督・コーチのハーフパンツ着用を認める。~~
(5) 病気やけがが発生した場合、救護係等からの応急処置を認める。但し、5分後に試合続行の不可の確認を審判が行う。ゲーム続行の場合は、遅延行為にならないように速やかにゲームを再開する。
(6) コートサイド・ベンチに持ち込めるもの(かごは置きません)
① コートサイドに持ち込めるもの(主審に許可をもらいながら使える道具として考えてよい)
・ラケット ・シャトル ・スクイズボトル(ワンタッチ式水筒等) ・タオル ・滑り止め ・バッグ(かご)
※フロアを濡らさないように、スクイズボトル等の直置きをしないこと。
② ベンチに持ち込めるもの
1) ~~ナメントバッグ~~(着替え類、タオル、ラケット) ※会場通路が狭いため、ご了承ください。
2) 60秒、120秒インターバル時に、ベンチからコートサイドに持ち込めるもの
・アイスバッグ(使用の仕方注意) ・コールドスプレー ・濡れタオル
・うちわ(応援道具としては不可) ・~~ナメントバッグ~~
・クーラーバッグまたはクーラーボックス(ソフトタイプ)
* 注意事項 1) A4サイズぐらいのコンパクトなもので一つまでとする。
2) 底に水をためないこと。床に水滴をたらさないことに注意すること。
③ ベンチに持ち込めないもの
・モバイル通信機器(iPad、携帯電話等) ・大きなクーラーボックス ・携帯扇風機
(通信機能付き腕時計の持ち込みは認めるが、使用は禁止する。)
- (7) 横断幕について
① 団体名のみ使用可とする。(個人名、スポンサー名など不可)
② プレーの妨げにならない場所(コートサイド等)に掲示する。(詳細は会場にて指示)
③ 白基調の横断幕は、試合進行の妨げになるので避けること。(コートサイド側は可)
④ 千羽鶴は可。
- (8) 写真・ビデオ撮影について
① 会場のコンセントやフラッシュを用いての撮影は禁止とする。会場内コンセントでの充電も禁止とする。
② 大会の様子を関係者が記録撮影することは構わないが、公的な場所やウェブサイト上で上映や公開をする場合には肖像権の関係上、映っている選手と保護者の同意を得ること。ただし、生徒による撮影は禁止する。